

## 広島市におけるいじめ防止対策等の主な取組について（報告）

### 1 令和5年度の成果（実績）と課題について

#### （1） 支持的風土の醸成された学級づくりに係る取組の推進

令和4年3月に配付した学校・教員向けの指導資料「一認め支え合う学級の実現に向けて—支持的風土の醸成された学級づくりのためのハンドブック」と、令和5年3月に配付した同ハンドブック別冊「学校実践編」の内容を、生徒指導主事や教育相談・支援主任を対象とする集中研修で扱った。

また、11月に開催した生徒指導協議会において、改訂された生徒指導提要で示された4つの「生徒指導の実践上の視点」が、支持的風土を醸成する上で重要な視点であることを説明するとともに、別冊「学校実践編」に掲載している、広島市で実際に起こったいじめの事案を基にした研修資料を使って、未然防止の視点で、支持的風土の醸成された学級づくりに向けた取組について各校の実践を交流・協議することができた。

さらに、支持的風土の醸成された学級づくりに向けた取組においては、保護者や地域の理解・協力が不可欠であることから、いじめ問題対策連絡協議会が作成した啓発動画「子どもの笑顔のために～いじめとはどんなもの？～」（別添資料①参照）を、8月に広島市公式YouTubeチャンネルで公開した。

そして、年度末には、支持的風土の醸成された学級づくりに向けたハンドブック別冊「学校実践編Ⅱ」を作成した（別添資料②参照）。「学校実践編Ⅱ」では、「児童会・生徒会活動」について、各学校の取組の好事例を掲載している。具体的には、小学校の取組として、児童会が主体となって「いじめ防止カルタ」を作成したものや、中学校の取組として、生徒会が作成したいじめ防止に向けた学習の指導案を基に、各学級の代議員が教師役となって授業をするものなどを掲載している。

今後の課題としては、いじめの被害を受けた児童生徒の中には、いじめ行為が止んだ後も心の回復ができずに休みがちになったり、転出したりする児童生徒も少なくないことから、より一層、支持的風土の醸成された学級づくりに係る取組の充実と、MLB教育の充実が必要である。加えて、学校として適切な対応をしていたとしても、保護者が学校のいじめ対応に関して不信感を持つケースもあることから、啓発動画「子どもの笑顔のために～いじめとはどんなもの？～」の活用を進めるとともに、支持的風土の醸成された学級づくりに向けた取組等、いじめ防止に向けた取組を、地域や家庭に積極的に発信する等の取組も必要である。

#### （2） いじめの積極的な認知に向けた教育相談の充実

いじめの積極的な認知に向けて、ICTを活用する等、アンケートの実施方法を工夫したり、アンケートと教育相談を組み合わせるなど計画的に実施したりするなどの好事例を、指導主事やいじめ対策推進教諭が、学校訪問等で収集・周知した。また、教育相談の一層の充実を図ることを目的として、教育相談・支援主任を対象とする集中研修や各学校における校内研修等を行い、教育相談に係る教員の資質向上のための取組を推進した。

今後の課題としては、児童生徒全員への面談の時間の確保が困難であると感じる学校もあり、引き続き、教育相談の充実に向けた各学校の工夫を収集・周知する必要がある。

#### （3） ライフスキル教育・MLB教育（SOSの出し方に関する教育）の充実

ライフスキル教育については、いじめ対策推進教諭の定期訪問や、教育相談・支援主任を対象とする集中研修を通して、学校の取組の充実に向けた好事例を収集し周知に努めたことにより、ライフ

スキル教育の年間計画を作成し計画的に実施した学校が増えている。

MLB教育については、今年度、小・中学校において全校実施することができた。また、高等学校においても、令和6年度から全校実施できるよう、指導案を作成した。

今後の課題としては、引き続き、各学校のライフスキル教育の実践事例を周知するとともに、MLB教育については、小・中学校での全校実施により明らかになった課題等を踏まえ、指導案を見直す必要がある。

#### (4) 学年間・学校間の情報引継ぎの定着

情報引継ぎを行うに当たって、「引継ぎ対象の児童生徒の一覧を作成し管理している」など、引継ぎ資料を有効に活用している学校の事例を、いじめ対策推進教諭が全校を訪問して周知したほか、幼保小連携においては、小学校が主体となった引継ぎが概ね定着したり、小中高連携においては、年度変わりの引継ぎだけでなく、日頃から情報共有する際に、引継ぎシートの項目を意識したコミュニケーションが取れるようになってきたりしている。

課題としては、引継ぎ資料の保管の仕方や、記載内容の確認体制の構築等があり、引き続き、各校の工夫を収集・周知する必要がある。

#### (5) 児童生徒による主体的ないじめ防止に向けた取組の充実

各学校における取組について情報収集を行った。小学校においては、児童会が全校に呼びかけ、「クラスみんなで、いじめ防止についての意識を高め、仲を深める」ことを目的に、「**な**かないでよくもわたしもついてるよ」等のいじめ防止カルタを各クラスで手分けして作成する活動を行ったり、中学校においては、生徒会執行部が、いじめ防止の標語を募集し、校内や近くの公民館に掲示したりするなど、各学校では、児童生徒が主体となったいじめ防止の取組が広まっている。

また、庚午中学校では、『BIG HEART』プロジェクトとして、平成22年度に、生徒会が中心となっていじめ撲滅宣言「なくそう」「しよう」「助けを求めよう助けよう」の3つを柱とした宣言を採択している。その後、さらに「なくそう」宣言に6つの具体的な項目を策定し、10年間この宣言を基にいじめ防止の取組を行っている。毎年、生徒総会で宣言について話し合い、生徒全員で宣言を決定している。そして、この宣言をより浸透させるため、生徒会は宣言に賛同するよう署名活動を行い、署名をした生徒には基準服に付けられる「ブルーリボン」を配付している。この取組について、文部科学省主催の「令和5年度全国いじめ問題子供サミット」において生徒会代表の生徒がポスターセッションを行った。

さらに、広島市PTA協議会主催の「いじめ問題子どもサミット『つなげる心』」では、中学生125名が参加し、「発見しづらいいじめについて、クラスメイトの自分たちはどうしたらいいのか？」というテーマで意見交流した。

今後の課題としては、各学校の児童生徒による主体的ないじめ防止の取組をより充実させるため、引き続き各校の好事例を収集・周知していく必要がある。

## 2 令和6年度の取組の方向性について

### (1) 支持的風土の醸成された学級づくりに係る取組の推進

教職員の更なる資質向上と各学校における組織的な取組の推進を図るため、「支持的風土の醸成された学級づくり」に向けたハンドブックと、別冊「学校実践編」「学校実践編Ⅱ」を、生徒指導主事や教育相談・支援主任を対象とする集中研修や各学校における校内研修等で活用する。また、各学校の取組状況等についてさらに情報収集し、好事例については、令和7年度に向けて、ハンドブックの実践事例の中に加えていく。

さらに、いじめ問題対策連絡協議会が作成した啓発動画「子どもの笑顔のために～いじめとはど

んなもの?～」の活用や、保護者、地域への学校の取組の発信についての好事例を収集し、各校に周知する。

ライフスキル教育については、各学校における取組の一層の推進を図るため、これまでに蓄積した実践事例（年間計画の作成例も含む）を、いじめ対策推進教諭の定期訪問や、教育相談・支援主任を対象とする集中研修を通して周知する。

MLB教育については、高等学校における全校実施を着実に推進することに加え、小・中学校での実施において、一層充実した指導となるよう、これまでの実践を踏まえて、小・中学校で実施している指導案の改訂を行う。

## (2) いじめの積極的な認知に向けた教育相談の充実

引き続き、教育相談の一層の充実に向けて、アンケートや教育相談によるいじめの積極的な認知の視点で、ICTを活用したアンケートの工夫や教育相談の年間計画等、各校の実践事例をいじめ対策推進教諭等による訪問の際に収集するとともに、収集した好事例を精選し、教育相談・支援主任を対象とする集中研修や各学校における校内研修等で共有する。

## (3) 学年間・学校間の情報引継ぎの定着

本市の園・学校における「切れ目のない情報引継ぎ」の一層の定着を図るため、令和5年度末に実施している幼稚園・保育園等から高等学校等までの情報引継ぎの実施状況を把握し、その成果と課題を踏まえて必要な改善を行うとともに、情報引継ぎに係る留意点等を各園・校長会で周知する。

また、引継ぎ資料の活用についての充実を図るため、学校間の引継ぎだけではなく、校内における学年間や関係教職員間での引継ぎ資料の活用について、保管方法等も含めて好事例を収集・周知する。

## (4) 児童生徒による主体的ないじめ防止に向けた取組の充実

文部科学省主催の「全国いじめ問題子供サミット」や市PTA協議会主催の「広島市いじめ問題子どもサミット」への積極的な参加を検討するとともに、引き続き、各学校の児童会・生徒会の取組（小中連携による取組も含む）について情報収集し、好事例について周知を図る。

### 【参考】いじめ防止対策に係る学校の取組状況

取組項目	取組内容
<b>(1) 教員と児童生徒との信頼関係の構築</b>	
安心して生活できる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 管理職や生徒指導主事等が、「支持的風土の醸成された学級づくりのためのハンドブック」や、今年度改訂した「いじめ対応ハンドブック」を活用し、長期休業中や職員会議等、様々な機会を作って研修を行った。</li> <li>○ MLB教育に関する研修を行い、MLB教育の充実を図った。</li> <li>○ 「関わり合いをもたせる」「伝え合う」「一人ひとりを大切にする」「子ども同士の意見交流を重視する」等、各学校でテーマを決めて授業づくりに係る校内研究を行った。</li> </ul>
教員の感性・人権感覚等の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「教師の言葉」についての校内研修を行い、教師の発言・応答が子どもにとって重要な言語環境であることを再認識し、日頃発している言葉を振り返った。</li> <li>○ 広島修道大学の河口教授を招聘し、学校教育におけるLGBTQに係る対応について研修した。</li> </ul>
学校の考え方等の発信・周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ PTA研修会において、いじめや不登校に関する研修を行った。</li> <li>○ 学校だより、校長通信、生徒指導だより等、様々な機会を通じて発信した。地域に協力してもらい、学校だより等を、地域の方に配付してもらう学校もあった。</li> <li>○ SNSのトラブルについて、入学説明会において警察官から実例に基づく留意点等を聞く時間を設けたり、保護者啓発のプリントを配付したりした。</li> </ul>

(2) いじめの未然防止と早期発見及び適切な対応	
未然防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 縦割り活動やグループ学習等で、校内で研究を進めている協同学習の考え方を生かしながら、良質なコミュニケーションの場を積極的に取り入れた。</li> <li>○ 授業中や休み時間の過ごし方など、学級内でのルールを、子どもたちに課題意識を持たせ考えさせた。</li> </ul>
心の参観日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 臨床心理士を講師に招き、「相手の気持ちを考えながらの聴き方」をテーマにロールプレイも交えての授業を実施した。</li> <li>○ アナウンサーを講師に招き、国際理解やキャリア教育についての講話を聞いた。</li> <li>○ 障害者理解学習として、様々な立場の講師を招き、「心のバリアフリー」「認知症サポーター養成講座」「障害者スポーツ」等について学習した。</li> <li>○ 元客室乗務員を講師に招き、「想う心」についての講話を聞いた。</li> <li>○ その他、学校が設定したテーマに沿って、学校心理士、弁護士、助産師等、様々な立場の講師を招聘し、実施した。</li> </ul>
児童会・生徒会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童会・生徒会を中心に、次のことを企画・運営した。 「あいさつ運動」「縦割り活動」「折り鶴づくり」「地域清掃」</li> <li>○ いじめ防止を訴える動画を作成し、全校で視聴した。</li> <li>○ 学校行事としての展示会の一部を児童会に任せ、児童会が、縦割り班による作品作りを企画・運営し、縦割り班で作成した作品を展示した。</li> </ul>
早期発見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いじめアンケートを年間複数回行い、児童生徒だけでなく、保護者にもアンケートを実施した。</li> <li>○ アンケートの実施に当たり、次のような工夫を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケートの記入時間を十分に確保したり、自宅に持ち帰って保護者と一緒に記入したりできるようにする。</li> <li>・ 複数回行う中で、タブレットで実施する回や、紙で実施する回など計画的に行う。</li> <li>・ 文章完成法を取り入れ、教育相談と組み合わせる。</li> <li>・ 校内に「あのねBOX」を設置し、困ったことがあればいつでも相談できるようにしている。</li> </ul> </li> <li>○ 年間1回、全生徒がスクールカウンセラーによる面談を受けた。</li> </ul>
(3) 校内組織体制の構築	
組織的な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 配慮を要する児童に関する会議について、各担任が生徒の引継ぎシートを基に報告するとともに、会議後、必要に応じて加筆している。</li> </ul>
(4) 地域との連携の推進	
情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いじめ防止に係る取組をホームページに掲載したり、学校だより等に掲載し、地域に配付したりした。</li> <li>○ 学校運営協議会で、校長がいじめ防止の取組等について、具体的に説明した。</li> </ul>
地域と連携した取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公民館等の地域のコミュニティの場で、吹奏楽部による演奏会を開いたり、文化系部活動の作品を展示したりした。</li> <li>○ 体育系部活動が地域の小中学校に出向き、実技指導をする。</li> <li>○ 中学校区ふれあい推進協議会による「あいさつ運動」として、中学校区内の全児童・生徒からあいさつの標語を募集して、各校の優秀作品を選び、のぼり旗にして地域に設置した。</li> <li>○ 総合的な学習の時間の、自分たちが住む町の特色や良さを調べる学習において、地域の方をゲストティーチャーとして招き、地域の歴史、自然、行事、商店街、再開発事業などについて学んだ。</li> <li>○ 小、中、高が連携して、地域で音楽コンサートを開催した。</li> </ul>